



平成 26 年度「篠ノ井西中学校 学校通信」

発行日 平成 26 年 11 月 6 日

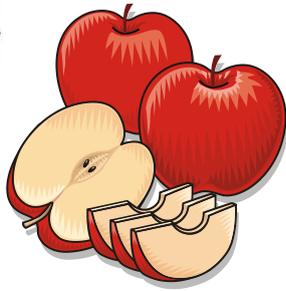
第 30 号 (157 号) 校内版

長野市立篠ノ井西中学校

電話 (026) 292-0244

FAX (026) 292-7880

担当: 教頭 中山



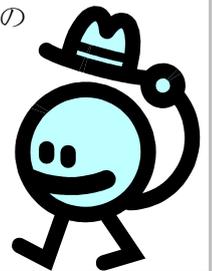
# 布施だより

## 《 第 50 代生徒会役員選挙 ～ 引き継がれるとき ～ 》

「恕の心 ～ つなげよう思いやりの輪 広げよう無限の可能性 ～」の生徒会スローガンで全校生徒諸君を引っ張ってきてくれた第 49 代生徒会から第 50 代生徒会に引き継がれるときがきています。

2 学年各学級から選出された 6 名の正副学級会長候補者諸君が、10 月 24 日 (金) 学年内選挙を通じてそれぞれ 3 名の学年候補者に絞られました。学年内選挙を通じて、自身のこれまでを振り返り、仲間の支えを改めて感じ、学級のまとまりを感じてきた 2 学年諸君が、今日 4 日 (火) からは 1・3 年の教室訪問を行っています。立候補にあたっての公約を紹介します。

- ・第 50 代という節目を迎えます。49 年間の伝統を受け継ぎ、新たな歴史を創るために、生徒会員の皆さんと想いを共有したいです。
- ・全校の皆さんが、チャイムに頼らずに時計を見て自主的に行動できるような学校にしたいです。そのために、全校で時間を守るような取り組みを考えていきます。
- ・生徒ひとりひとりの良いところを尊重し、お互いに高め合う気持ちを大切に、西中の皆さんの役に立てる充実した活動を実行します。
- ・候補になった理由は、先輩方の活躍を見て「すごいなあ」と思ったからです。そして、先輩方の築き上げてきた生徒会を引き継いでいきたいからです。
- ・西中が創り上げてきた伝統を引き継ぐ責任と使命をもち、次へ歴史をつなげていくために、活気に満ちた生徒会を目指します。
- ・全校の皆さんと挨拶を交わしあい、コミュニケーションを深め、笑顔あふれる学校を目指します。そのために挨拶など基本的なことにきちんと取り組みたいです。
- ・「何事にも全力で取り組み、思いやりの心を忘れない学校」を皆さんと一緒に創り、そして銀河祭を 50 周年として成功させたいです。
- ・今、西中で力を入れている「挨拶」をさらに発展させ、笑顔あふれる新しい西中を創るためのプロジェクトを立ち上げます。
- ・学校創立 50 周年という年に、先頭に立ち皆さんと共に、この学校をより良くしていきたいです。そのために「挨拶カード」を実施していきます。



候補者諸君の公約はひとりひとりのものなのだけれど、2 学年諸君みんなの思いがいっぱいにつまった 2 学年としての公約でもありますね。2 学年の仲間たちがひとつの塊になって、西中 50 年の歴史と新たな挑戦に向かおうとしてくれています。

## 《 講演会「社会とつながる研修」 ～生きること・働くこと・学ぶこと～ 》

前号でお伝えした教育課程研究協議会の午後には教職員の研修の機会がありました。「有限会社 滝沢板金塗装～滝沢隆さん」をお招きしての講演会で、演題は「生きること・働くこと・学ぶこと」でした。

木訥とした語り口で滝沢さんが開口一番言葉にしたのが、『先生方、今の学校の学びが、どう生きることに関わっているのですか？』『そして働くことは、学びから、最も遠いところになってしまっているんじゃないですか？』でした。

町工場の親父さんが、まず最初に口にした『学び』という言葉に「相当、勉強してきているな！」とぶっ飛びました。

経営理念を「私たちは、働くことを通して人間性の向上を目指し、地域とお客様の拠り所の場として、社会に貢献し自らの幸せを追求します。」と掲げ、「人様のお役に立つ」ことを経営者自身の問い掛けとして語られました。

社会貢献の上で、どのような人材が求められているのか「～優しく思いやりがあること・行動する勇気をもっていること・挫けない心を有していること・謙虚であること・友達が多いこと・自分で考えることができること・素直であること・礼儀正しいこと～」を、8年間の職場体験受け入れの実績を通じて、得たであろう確信として挙げていました。（反対項目としては「自分のためだけに働く・何をやっても長続きしない・ルールを守らない・何でも外部の責任にする」）

そして、企業の存在価値として生き残れる条件を「人材育成ができる企業」と断じてらっしゃいました。職場体験に言及して学校への注文も指摘されます。「いい企業を学校が探してほしい、もっと学校が企業と顔と顔を突き合わせ、実際に入念な打合せをして職場体験に学校が何を求めているのか、職場に伝えてほしい。学校の『育てる』という観点を持ち合わせている良質な企業はいくつもある。」とも断言されました。

そして講演での最後のメッセージが「子どもの良さを伸ばす、子どもの心を奮わせる先生方の一言は、子どもたちに自信をつけさせる特効薬です。」でした。

わずか1時間の講演に向けて、担当の先生と打合せを入念にし、多くの教育関連書籍や映像を渉猟したであろうことが分かる、また「育つこと（育てること）」「学ぶこと（教えられること）」についての哲学を追究され続けていることが伝わってくる誠実な講演会でした。私たち自身が襟を正す機会に恵まれました。

## 《 飛翔する時 ～ 新人戦に参加して ～ 》

11/1(土)新人体育大会バレーボールの部で、西中会場で男子バレーボール部の活躍に接していました。

前日遅くまで会場準備をしてくれていた10人の選手諸君はいつも以上に緊張の面持ちでアップをしています。第1試合が始まります。なかなかボールが手に収まらず、サーブをオーバーし、レシーブをほとんど落とし、スパイクをネットに引っかけます。選手諸君の声もなかなか出てきません。

当然のように監督・コーチは檄を飛ばします。「人のせいにするな！」「人に任せるな！」「話せ！伝えろ！」。

そして時に突き放します。選手諸君は必死に考え、動き回ろうとします。フロアーに這いつくばってボールを拾い上げ、セッターにつなげます。アタッカーは精一杯の工夫を込めて打ち込みます。声を掛け合い、伝えるべき内容を、短い合間に交換し合います。



そうやって見ていると、プレーヤー諸君の動きが監督やコーチからの叱咤激励を恐れるのではなく、次第に自分の弱さから抜け出そうとする踏ん張りに思えてきます。わずか 40 cm のジャンプは仲間と気持ちを分かち合いたいという跳躍であり、自身の甘えに打ち克とうとする飛翔であり、信念をつなげたいというトスアップであったかのようにです。そして今の自分の殻を打ち破ろうとするもがきでもあったようです。

1 日めの試合を終えた解放感と、僅差で敗れてしまった悔しさをしまい込んで、10 名の選手諸君は翌日の会場準備に淡々と向き合っていました。……初冬の収穫の一日でした。

## 《 秋の文化活動に、スポーツ活動に収穫の時です！ 》

- <男子ソフトテニス部> 【県大会個人戦】 山口智司・宇佐美泰成さんペア 1 回戦惜敗  
北村太陽・神林優司さんペア 々
- <女子ソフトテニス部> 【県大会個人戦】 赤澤瑠美・風間愛梨さんペア  
1 回戦対上田五中○4-3 2 回戦対鉢盛中●0-4
- <男子バレーボール部> 対附属○2-0 対北部 ●1-2 (1 日め)  
対信濃○2-0 対櫻ヶ岡●1-2 (2 日め) (北信出場)
- <女子バレーボール部> 対犀陵●0-2 対戸隠 ○2-0 (1 日め)  
対豊野●0-2 対附属 ○2-0 (2 日め) (北信出場)
- <柔道部> 【県大会団体戦】 男子団体 第 3 位  
【県大会個人戦】 平林笑佳さん第 2 位 山口理聖さん第 3 位
- <剣道部> 【北信大会個人戦】 高橋舞さん 2 回戦惜敗 (ベスト 16)
- <サッカー部> 2014 恐竜杯中学校サッカーボール大会 第 3 位

## ～ ～ ～ お 知 ら せ ～ ～ ～

「第 2 回南長野ブロック学校人権教育連絡協議会」が 11 月 11 日 (火) 本校を会場に開催されます。4 時間めが公開授業になり、日程は以下のように変更となり下校時刻が早まります。(部活動生徒は通常です。)

\* 4 時間め 13:25～14:15

\* 下校 14:25

\* 部活動 ～16:45 (完全下校 17:00)

\* バス (通常通り 16:06・18:00 の運行になりますが、16:06 を利用して下校ください。)

放課後の時間を有効に使えるようご家庭でもご指導いただければ幸いです。

